

橋本創生総合戦略 事業評価シート

事業名	体験型観光を通じたシティプロモーションによる官民一体での持続可能な地域づくり人材の育成事業							
評価対象年度	令和4年度		橋本創生総合戦略 該当箇所	基本目標1 ともに創る 産業の振興と雇用を創出し定住できるまち				
事業実施年度	令和4年度～令和6年度							
事業の目的	本事業は、「地域資源を活かした体験型観光によるシビックプライド醸成事業」と「地域人材育成事業」と「官民連携によるシティプロモーション事業」から構成されており、これらの事業を関連づけながら、行政と地域住民等が連携して市内外に向けて情報発信を行う戦略的な地域プロモーションとそのためのコンテンツづくりおよびコンテンツに関わる地域人材育成を行い、これまでの事業を通じて明らかとなった課題を解消し、地域活性化を図り移住定住者の増加へとつなげ、持続可能な地域づくりを目指す。							
事業の内容	●地域資源を活かした体験型観光によるシビックプライド醸成事業 ●地域人材育成事業 ●官民連携によるシティプロモーション事業							
KPI(成果をはかる指標)	設定したKPI	①体験型観光コンテンツに参加した地域住民の人数 ②本事業により造成された体験型観光コンテンツの件数 ③シティプロモーションに関わる事業者の数 ④本事業で実施するセミナー及びワークショップの参加者数						
	事業開始時点(R4.4)	年間目標値(増加数)	実績値(増加数)	達成状況	事業終了時の目標値(R7.3末累計)			
	①0人 ②0件 ③0社 ④0人	①10人 ②1件 ③0社 ④30人	①21人 ②6件 ③11社 ④60人	①年間目標達成 ②年間目標達成 ③年間目標達成 ④年間目標達成	①155人 ②11件 ③17社 ④126人			
事業計画額	項目		金額(円)		事業実績額			
	1	地域資源を活かした体験型観光によるシビックプライド醸成事業	18,100,000			① コンテンツ開発・発信事業	7,618,452	
		2	地域人材育成事業	78,300,000		② 住民参加型PR事業委託	9,999,300	
			3	官民連携によるシティプロモーション事業		22,100,000		③ 移住・定住関連事業
		④ 地域人材育成・支援事業				④ 地域人材育成・支援事業	66,840,956	
						⑤ シティプロモーション支援委託	3,751,000	
						⑥ 販路開拓事業	3,051,935	
						⑦ 地場産品PR支援事業	12,216,867	
計画額計		118,500,000		実績額計	108,444,832			
事業の実績	事業名	実績概要			評価			
	1 地域資源を活かした体験型観光によるシビックプライド醸成事業	・事業者向けSNS等の活用セミナーや地域の多様な関係者とのワークショップ等の開催により、地域資源をPRし、実際に製品の問い合わせ増や小売りに繋がった。 ・橋本市周辺の18施設で観光客動向調査を実施し783の回答を受けた。(満足度95.8%) ・市内をサイクリングし、画像投稿いただいた方の中から特産品をプレゼントするインスタ橋本ライドを実施。229投稿、400名のフォロワー増。 ・観光パンフレット4000部、サイクリングコースマップ2000部を作成し、市内宿泊施設、道の駅、各イベントで配架。 ・大手旅行会社と連携したツアー造成に向け商談を実施。また出展したイベント会場では観光プロモーション動画や体験ツアーガイドブックの配布により誘客と地域産品の売上増。 ・橋本市・五條市連携の歴史の旅コンテンツツアーを試行的に実施。11月5日(日帰り)15名参加、11月12日(泊2日)7名参加となり、参加者の満足度は高かったものの、人数は募集より少なく終わった。			3			
	2 地域人材育成事業	・アンケート調査結果に基づく企業訪問を含め延べ369社の企業と接触。既存工業団地等の操業件数増加により、従業員数は令和5年4月1日時点で、1,540人となり、戦略目標値である1,400人を達成。なお、うち861人が地元雇用。 ・移住コンシェルジュを利用して移住した人数、14世帯25名(大阪、兵庫、山口、県内) ・相談件数、年282件(延べ) ・移住サイトアクセス数 6,813回(昨年度と比べ減少) ・宝島社田舎暮らしの本第11回「住みたい田舎」ベストランキング和歌山県内1位(人口規模別) ・土づくり講師を招き、農業者を巡回して土づくりの基礎知識習得を支援。 ・橋本ふるさと便において、補助額:108,176,819円(指定事業者は251)の支援を行った。 ・地域づくり活動交付金の要綱を見直し、活用団体の増加に至った。(R3:2→R4:6団体)			3			
	3 官民連携によるシティプロモーション事業	・橋本市シティプロモーション計画を策定。(令和5年度より運用開始) ・関係人口増加へとつなげる市内ワークショップの開催(魅力探し)と現地視察(都市企業人)を実施。 ・社会構想大学院大学の地域プロジェクトマネージャー養成課程において本市をフィールドとした社会人研究生から政策提言を受けた。 ・農業者の販路を広げるためにインターネット販売を推進し、44の農業者が活用に至った。 ・柿大使2名、農産物PRアンバサダーの採用や、大阪市・青森県黒石市・北海道留萌市などで柿や農産物のPR・販売を実施。また、東京都太田市場でトップセールスを実施。			2			

橋本創生総合戦略 事業評価シート

事業名	体験型観光を通じたシティプロモーションによる官民一体での持続可能な地域づくり人材の育成事業			
評価対象年度	令和4年度	橋本創生総合戦略 該当箇所	基本目標1 ともに創る 産業の振興と雇用を創出し定住できるまち	
事業実施年度	令和4年度～令和6年度			
事業の効果についての評価	評価	評価理由		
	2 本事業は地方創生に相当程度効果があった	KPIはすべて達成し、個々に存在している地場産業や自然といった地域資源の戦略的なプロモーションにむけた準備段階としては前進していると考え、各事業の反省点が多々ある為、「2.本事業は地方創生に相当程度効果があった」と評価した。		
必要性についての評価	評価	評価理由		
	2 見直し・改善して実施	事業開始1年目で、事業目的に関する効果はまだ見えないが、コンテンツの作成、戦略的なプロモーションの実施を行うことで、地域活性化や移住定住者の増加へとつなげ、持続可能な地域づくりを目指しているため、必要性は高いと考える。 ただ、例えば補助事業において、利用が少なかったり、全くないものがあるといった反省点も各事業に見られるため、「見直し・改善が必要」と評価した。		
目標(KPI)達成・未達成の要因	達成状況	達成・未達成の要因分析		
	①年間目標達成 ②年間目標達成 ③年間目標達成 ④年間目標達成	①高野山麓体験プログラムガイドブックやパンフレットの制作、更にそれを市内外のイベントにて設置・PRしたことによりKPI達成につながったと考える。 ②アウトドア志向が高まっていることでE-bikeを導入したり、観光名所を紹介するテレビ番組放映を実施したことで、地域資源を組み合わせた体験型観光コンテンツを多く開発できた。 ③当初KPI計画段階では令和4年度に事業者用のプラットフォームを創る予定であったため、0社としていたが、プラットフォーム作成の段階で事業者から関係人口を持つべきであるとアドバイスを受け、関わってくれる事業者の紹介を受けた。 ④庁内、事業者、大学と他様な場でWSを開催することができたためKPIを上回ることができ、現状の当市を捉えたCP計画を作成できたと考え。		
今後の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>●地域資源を活かした体験型観光によるシビックプライド醸成事業について <ul style="list-style-type: none"> <li>・サイクリストのSNS投稿において、サイクリングロード等走りやすいという意見が多かった一方、サイクルステーションの数がもう少しあればとの意見もあったため、サイクリストの受入体制にも注力する。</li> <li>・橋本市・五條市連携の歴史の旅コンテンツツアーについて、広報ははしもとや折込チラシでのPRが欠けていたので、次回はそれらを活用し市民に広く情報発信していきたい。</li> <li>・観光地域づくりをテーマに掲げての講演会やワークショップは問題意識を持つ人を中心に参加があり、厳しい意見が多かった。意識等の偏りなく、様々な視点で意見が述べられたことを施策に活かすことができるワークショップの取組みが必要と考える。</li> <li>・観光地域づくり未認知者を引き付けるようなイベントの継続を実施し、特に地域内関係者が、地域づくりに積極的に参加していくことで、地域を深く理解し、地域に対する誇りと愛着を強く持つこと、また、地域を訪れる来訪者を気持ち良く迎え入れることと気配りを持ち、来訪者と交流を図ることで、観光と交流の意義に対する認識を高めていくことを目標とする。</li> </ul> </li> <li>●地域人材育成事業について <ul style="list-style-type: none"> <li>・新規企業へ訪問等を行い、積極的な誘致活動を展開するなど、あやの台北部用地の早期完売に尽力する。</li> <li>・関東圏からのUターン等の問い合わせが少しずつではあるが増加しており、また、宝島社田舎暮らしの本やその他調査結果から「住みやすい・住みたい田舎」としての評価もされていることから、その地位を築いていけるよう、橋本暮らしのPRに力を入れていきたい。</li> <li>・農業者所得が近隣他市より少ないため、所得向上を目標に各事業の運用方針を一部修正等行っていく。</li> <li>・展示会や商談会の実施形態の変化に合わせて、実施場所についても海外も含めて考え事業者にとって販路開拓を実施しやすい形を検討し、支援を続ける。</li> <li>・新商品として開発された商品を、市内の方にも知っていただくため、市HPに加えてLINEでのセグメント配信、市内イベントでの展示など積極的にPRを実施する。</li> <li>・子どもの体力や運動能力の向上、体を動かすことの楽しさを発見し、スポーツに親しむことができる機会や環境づくりを行なう。</li> <li>・団体活動の市内への波及を図るため、交付を受けた団体の事業内容や成果等を市HPに掲載する。加えて、より活用しやすい制度となるよう市民活動団体等の声を聞き、必要に応じて要綱の改正を行っていく。</li> </ul> </li> <li>●官民連携によるシティプロモーション事業について <ul style="list-style-type: none"> <li>・具体的な実行に向けたアクションプランを策定し、庁内全職員を対象にシティプロモーション研修を実施することで機運を醸成する。</li> <li>・ふるさと納税が目されていることを鑑み、特に寄附者が多い関東圏を中心に、返礼品PRと併せて商品の良さを知っていただける販路開拓やプロモーションを実施し、はしもとブランドのさらなる認知度向上を目指す。</li> <li>・高野山麓精進野菜(高野山麓農産物産地化協議会)と連携し、よりPRを行い販売を積極的に行う。</li> </ul> </li> </ul>			
	担当課	地域振興室(政策企画課)、シティプロモーション課(シティセールス推進課)、産業振興課(はしもとブランド推進室)、農林振興課、企業誘致室、生涯学習課		

●事業効果についての評価

- 1 本事業は地方創生に非常に効果的であった
- 2 本事業は地方創生に相当程度効果があった
- 3 本事業は地方創生に効果があった
- 4 本事業は地方創生に対して効果がなかった

【資料4：外部評価シート】

橋本創生総合戦略 外部評価シート

<p>事業名</p>	<p>体験型観光を通じたシティプロモーションによる官民一体での持続可能な地域づくり 人材の育成事業</p>
<p>①事業の評価 (1か2に○を付けて ください)</p>	<p>1 <input checked="" type="radio"/> 事業が総合戦略に掲げるKPI（重要業績評価指標）の達成に有効であった</p> <p>2 <input type="radio"/> 事業が総合戦略に掲げるKPI（重要業績評価指標）の達成に有効とは言えない</p>
<p>②評価の理由・意見</p>	<p>例えばKPI①「体験型観光コンテンツに参加した地域住民の人数」において、目標値の達成はしているが、この数値がどこまで事業の目的や目指す姿に寄与しているのかわかりにくい。その他のKPIについても同様の事が言える為、繋がりを整理してほしい。</p> <p>ただ、各事業が「KPIの達成に有効とは言えない」とまでは判断できないため、この評価とする。</p>
<p>③今後の方針 (ア～エのいずれかに○を付けてください)</p>	<p>ア <input checked="" type="radio"/> 事業を更に発展・拡大させるべきである</p> <p>イ <input type="radio"/> 事業内容の見直し（改善）が必要である</p> <p>ウ <input type="radio"/> 特に見直しの必要はなく、このまま継続すべきである</p> <p>エ <input type="radio"/> 事業を中止すべきである</p>
<p>④③の理由</p>	<p>イ.事業内容の見直し（改善）は言うまでもなく必要であるが、例えば高野山麓精進野菜を利用した食育を進める為に農林振興課とこども課が協力体制を取り、シティプロモーション課が子育て世代の定住移住PRに繋げていくといったような、既存の事業の発展・拡大も必要であると考えため。</p>